

創設 130 周年に向け、地域市民と共に今動き出す

大牟田天領病院だより vol.5

第6回 天領メディカルセミナー

今回のセミナーでは、熊本大学大学院生命科学研究部 代謝内科学分野 教授 荒木栄一先生に「糖尿病合併症予防の Update：多因子介入の重要性」のテーマでご講演を頂きました。糖尿病は、すべての年代に発症し、症例数も多く、健康寿命を短くする合併症が発症するため、医療スタッフはその基礎知識をもち対応をしなければなりません。荒木教授は、糖尿病の原因となる膵臓からのインスリン分泌に関する基礎研究から臨床と疫学まで巾の広い範囲で仕事をされており、糖尿病学会のトップリーダーの一人です。

講演では、Kumamoto Study の紹介にはじまり、厳格に血糖をコントロールすることが小血管障害の糖尿病合併症（網膜症や腎症）を抑制することを証明され、大血管の障害（心筋梗塞、狭心症、脳卒中）には改善がみられないことを紹介されました。その後、厳格すぎる血糖のコントロールをした場合に死のリスクが発生することも明らかにされたため、日本の糖尿病の専門医によって、心筋梗塞や脳卒中を予防する目的で「糖尿病合併症を抑制するための介入試験：J-DOIT3」の研究がなされました。その結果、平均値にてHbA1cを6.8%、血圧を123/71mmHg、LDL コレステロールを85mg/dLにもっていった強化治療群において、小血管イベント（網膜症、腎症）も大血管イベント（脳血管障害）も抑制することが示されました。荒木教授は、健康寿命を延長するために、血糖、血圧、LDL コレステロールをコントロールすることが重要であることを結論づけられました。ただし、血糖のコントロールは厳しすぎる必要はない

病薬の進歩とその作用機序と使用法についてもご紹介をいただきました。

荒木教授には、ご多忙の中に大牟田天領病院セミナー講演にて本院スタッフならびに連携病院スタッフにご教示頂きましたことを深く感謝申し上げます。

本院における糖尿病診療は、糖尿病・代謝内科の後藤先生、岡川先生（熊本大学からの非常勤医師）が中心的に診療を、本院をリードしています。血糖の異常や糖尿病でわからない時には、遠慮なく医療スタッフに質問をして下さい。



熊本大学大学院
生命科学研究部 代謝内科学
教授 荒木 栄一 先生



糖尿病・代謝内科 部長 後藤 秀生
荒木 栄一教授
病院長 興梠 博次
副院長 久保田 健治